

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称：一般社団法人 しなの福祉教育総研	所在地：386-0001 長野県上田市上田 180-1
評価実施期間： 令和5年6月1日から令和6年3月25日 *契約日から評価結果の確定日（通常、評価結果報告会日）まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） B2020068 B18024	

2 福祉サービス事業者情報（2024年 2月現在）

事業所名：特別養護老人ホームうつくしの里 （施設名）	種別：介護老人福祉施設
代表者氏名：小岩井 浩一 （管理者氏名）	定員（利用人数）： 56名
設置主体：社会福祉法人ジェイエー長野会 経営主体：社会福祉法人ジェイエー長野会	開設（指定）年月日： 1995年 4月 1日
所在地：〒390-0221 長野県松本市里山辺 910-1	
電話番号：0263-39-2277	FAX番号：0263-39-2278
電子メールアドレス：soumu@utsukushinosato.com	
ホームページアドレス：WWW.ja-naganokai.or.jp	
職員数	常勤職員： 30名 非常勤職員 14名
専門職員	看護師 4名
	介護支援専門員 1名
	機能訓練指導員 1名
施設・設備 の概要	（居室数） 26室 （設備等）天井リフト設置居室13室 床走行リフト2台、温泉

3 理念・基本方針

わたしたちは、「協同のこころ」をもって“あなた”とともに“地域”とともに一人ひとりの幸せ・笑顔を創ります
--

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

<ul style="list-style-type: none">・地域共生社会に向けて地域との連携、地域貢献活動、地域への情報発信の取り組み。・職員の育成とエンゲージメント経営の取り組み
--

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	2 回（平成 26 年度）
---------------	---------------

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

(1)組織的な運営が実践されています。

○社会福祉法人ジェイエー長野会を母体として、長野県内の随所で地域福祉づくりをされています。組織力を生かした安定した運営が、多床室のリフトの設備や論理的な介護技術の導入などに活かされています。組織力はまた、理念と共に職員の行動目標になり、入所された利用者にとって、その人らしい幸せな日常生活のお手伝いになり、親切で良質な福祉サービスが提供されています。

○職員の知識の習得と介護技術などの向上に、組織として研修や資格取得を計画的に推進されています。また、各種のマニュアルが整備されており、一定のレベルでの標準的な指標として周知、共有されています。

(2)くつろぎの場が確保されています。

○利用者の中には、購読した新聞をリビングで読まれたり、市の移動図書館から借りた数冊の本が、リビングの中央設置された棚に置かれ、利用者がいつでも本を手にする環境が用意されています。テレビをみたり、おしゃべりをしたり、リビングはくつろぎの空間として機能しています。

(3)安定した経営と人材育成に尽力しています

○昨今の高齢者福祉の分野では、人材確保が難しく、利用者数を削減している事業所がある中で、ジェイエー長野会では外国人の特定技能実習生の受け入れ等を通して人材確保に努めています。また、新規採用に向けた職場説明会、ホームページ等の活用によって広く人材確保に努めています。同時に、法人が作成した人材育成マニュアルの中に、キャリアパス、人事考課制度を見える化し、職員が必要とする資格、研修内容を明示しています。職員にとってモチベーションアップの原動力になっています。

○利用者確保と入居率の安定は、施設運営に欠かせない要素です。現場の職員は、利用者の健康に留意して、入院の原因といえる誤嚥、尿路感染等の重篤化リスクの削減を目指して、介護知識と介護技術の習得に尽力しています。

(4)地域との関係性の継続

○地域との交流は、数年来コロナ禍の中にあって、今まで継続していた地域行事への参加やボランティアの受け入れができない状況でした。しかし、コロナ禍以前は、ボランティアとして退職した職員による音楽活動や、日赤奉仕団による布切り活動、地元小学校、中学校、保育園児との交流が行われていました。コロナ感染が5類に含まれたことから、感染に留意しながらもコロナ前と同様に積極的な地域活動を推し進めてください。

(5)利用者一人ひとりの対応の共有化が図られています。

○介護計画は、利用者のニーズや家族の思いを反映させたものを職員間で検討し、作成されています。日々の支援の中で、生活に直結する支援方法の変更や見直すべき内容が表出した際は、ユニットでの話し合いを経て、対応の共有化を図っています。また、個別のベットには一人ひとりの対応が備え付けられています。

(6)良好な職場環境が職員のモチベーションの向上につながっています。

○職員とのヒアリングでは、介護の仕事のやりがいとして、①五感や言葉を通して、その人と接し、その人の生活を支援できること。②そのことで、自分も人として成長できること。③何かあった時、ケアマネや施設長に直ぐ相談できること。④職員は、仕事が楽しいと思っており、職員同士が仲良くて、急なシフトの変更にも協力してもらえること。⑤仕事のやりがいは、利用者と視線を合わせて話し、ありがたうと言われること。⑥ヘルパーから介護福祉士の取得、喀痰の資格など自分が向上できることを伺いました。美ヶ原温泉に施設があり、温泉への入浴がとても楽しみと、幾人もの回答がありました。施設長の細かな配慮が、自己評価票にも顕われており、取り組んでいることを記述して頂き、日々の介護や取り組みが理解できました。

◇特に改善する必要があると思う点

(1)プライバシーに関する職員間の意識の共有

○多床室をカーテンで仕切り、個別の空間を確保しています。ただ、カーテンによる仕切りで、プライバシーがどこまで保たれているかについては、職員が利用者の立場に立ち、不快と思われる内容を感じ取ることが求められます。設備、構造上の改善は困難かと思われませんが、不快と感じられる内容を、少しでも取り除けるものを組織として検討されることを期待します。

○二部屋の間トイレが設置されており、それぞれの出入りはカーテンになっています。日々、当たり前に行っている排泄介助の支援ですが、プライバシーの観点から、カーテンの設置の在り方や、理想とする形態について検討されることが望まれます。

(2)利用者の何気ない日常の思いを汲み取り、支援に反映されたい。

○職員とのヒアリングから、機械浴に時間がかかり、利用者を待たせてしまうことへの心苦しさを伺いました。また、利用者からは、機械浴の際にリフトに吊られる不安感や痛みの訴えがありました。利用者から伝わる思いや、声に対して、支援体制や設備の工夫について検討されることを望みます。

(3)災害時における安心、安全の確保。

○災害に対しては想定した避難訓練が実施されています。しかし、実際に地震や火災が起こった際は職員がどれだけ動けるか、既存のBCPでは不十分であり、見直しが課せられています。事業所だけでの対応は不可能との前提の下で、地域との相互扶助の観点から災害時の対応について、より確かなBCPの構築が望まれます。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

- ・ 共通評価項目（別添1）
- ・ 内容評価項目（別添2）

8 利用者調査の結果

聞き取り方式の場合（別添3－2）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添4）